

神奈川県立岸根高等学校 令和6年度 第3回学校運営協議会 議事録

・令和7年3月7日（金）15:50～ 岸根高等学校会議室

・出席者：・学校運営協議会委員

長島 由佳様（すこやかサークル会長）、
三田 敏幸様（岸根町内会長）、
望月 選様（F・マリノスポーツクラブ理事）、
奥山 恭子様（岸根高等学校 PTA会長）、久祢田 啓嗣（岸根高等学校校長）

・職員

三上 実（副校长）、井浦 洋（教頭）、久保 裕紀（カリキュラムG総括教諭）
松井 浩氣（キャリア支援G総括教諭）、菊本 亘孝（サポートG総括教諭）、
加藤 博信（生活支援G総括教諭）、尾崎 明美（地域連携協働G教諭）、
川崎 陽香（学校管理運営G総括教諭） ※G = グループ

・欠席者：濱崎 利司様（篠原中学校校長）、丹羽 滋子様（マーマしのはら保育園園長）

太田 早織様（神奈川大学人間科学部助教）、小澤 孝之様（篠原西小学校校長）、
長谷川樹生様（しのはら幼稚園園長）

（1）開会

① 校長挨拶

「今日はご多忙の中ありがとうございます。1年間の総括として色々意見をいただきたい。

率直なご意見をいただければありがたい。今日鶴見支援分教室の卒業式に行ってきました。

知的障害をもった生徒が在籍する高等部だったので本当に賑やか。ただ一人ひとり目標があって、それが達成出来ているかを職員が見ていた。じつとしているという目標、卒業式に出席すると言う目標などそれぞれ。

支援学校はみんなで協力しながら取り組んでいる姿勢を感じた。支援学校の校長にそのことを話したところ、そう言う見方をしてくれたと言つてくれた。

そのように外部からの意見は大切になるのでよろしくお願いしたい。」

② 会長挨拶

「雪が降ったり環境の変化が大きいが生徒の方が順応している。世の中も色々な準備している。例えば雪で高速道路を閉じていて、みなとみらいが進まなかつた。何かを準備したら何かがうまく行かないことがある。

様々な目で見ることで教育現場がよくなれば、この場がいいものになる。委員はそれぞれの立場で思ったことを伝えていきたい。」

（2）①令和6年度から4か年の学校教育目標について（確認）

②令和6年度学校教育目標まとめについて

・各グループから概要説明

○カリキュラム支援G 久保総括教諭より

「授業に関すること。校内評価達成状況。令和6年度の集計評価。

この調査は1年に2回実施している。全体的に差があまりなかつたと感じている。裏面に自由記述を載せてある。こっちが見るものなのでいい意見が多い。各教科より反省してどう活かすか。生徒に結果をフィードバックすることを考えている。どうやってやるかは検討中で、来年度の課題としたい。

二つ目の主体的のところはどう評価するかが難しかった。全体反省会のプリントをご覧いただきたい。各教科で研究授業に取り組み、目に見えないものをどう評価するかと言うところだが、生徒自身、自分が達成したものをどう振り返るか、自分が設定した目標に対してどう達成していくかを、みていいく。」

○キャリア支援 G 松井総括教諭より

「1年間の目標としては外部の地域の力を借りながら探究心を探っていく。達成のために我々岸根高校の教職員がどう持っていくのかが課題。プログラムを職員全体で作っているが周知が必要。今年の進路実績に関しては38期の改変をもとにして今年もかなりの実績がでている。本校では1、2、3、と担任団が上がっていくので、グループの方で資料等を活用して周知しないと時代遅れになってしまう。来年以降も地域の方々の力を借りながら、キャリアとして意義を見出せたらと思う。今年からサークルアクションとして校外に年2回出ている。これまでより良い発表が多かった。今年度より関東学院より力を借りて、ホールで2年生の課題研究発表会を行い、1年生も2グループ発表を行った。ひとえに地域の皆様企業の皆様のおかげである。来年もよろしくお願ひしたい。」

○サポート G 菊本総括教諭より

「サポートでは1年間の目標として生徒が自主的に意欲的に行事に取り組むことを目標とした。アンケートは良い結果となったが、アンケートは良いことを書くので、うのみにせずに考えていく。体育祭ではどう言った競技がいいかを生徒に聞きながらやり、どうしたらいいかを協議しながらやる。まったく0のところから始めるのは難しいが、1を10にするのは得意な子が多いので、教員としても関わり方を考えていく。部活動は1年生80%の人たちが部活に関わっている。調べてみると多くておどろく。来年度以降も部活に積極的に入ってもらって何が出来るのかかんがえる。後者の垂れ幕のように軽音が福岡の全国大会に出場し、演劇が関東大会最優秀賞。大きな成果がなくても、これまでより記録が伸びたり成果を感じているところも多く、生徒と一緒に取り組んでいける形を目指していく。」

○生活支援 G 加藤総括教諭より

「2番の生徒指導生徒支援が中心。1年間の目標として生徒が自己肯定感を持てるようにする。こころのサポート事業を実施し、2年間を通じて、心をサポートしていく。気軽に相談できる体制を作っていく。」

校内評価について、社会規範の尊重として、頭髪服装指導は減少傾向にある。

ただし心に通じる問題があった。

最悪のケースにはいたらなかったものの準じたものもあったのでまだまだ改善点がある。

サポートドックアンケートで結果を踏まえてでて担任副担任で面談を行っている。

相談件数が増えているので、横でどう連携をとっていくのかが課題。

予算がついていないが、来年度もこころサポートを継続していきたい。」

○地域連携協働 G 尾崎教諭より

「田口欠席、代理の尾崎です。裏面、4番をご覧ください。

今年もPTA活動を始め保育実習やすこやかまつり、小学校のクラブ交流など地域に支えてもらえた1年。コロナが明けて活動が活発になった一方で準備の時間や振り返りの時間が足りなかつた。

準備の段階から時間などを確保してやっていく。

アンケートをご覧のように満足している結果が多くなっている。

B10番の心の悩みに相談できるようになってきた、生活支援グループでSC等に繋げてくれたり、きめ細かく見てくれたり行事の満足度も高くなっている。

○学校管理運営 G 川崎総括教諭より

「卒業式に参加いただいた。いい式になった。謝辞を申し上げたい。
達成状況、課題は書いてある通りです。教育環境を整えることから始まり、コロナがあって ICT が発展、更に電子黒板の導入などで教育環境を更に整えていく。
防災関係について、火災発生場を言わないなどして、従事より成果を上げいいものが出来ている。
今後とも地域の皆様ともコラボしながらやっていく。
新しい取り組みは事故不祥事防止関連をグループで独自に 3 回実施することができた。短い時間ではあるが教員同士のコミュニケーションや職員がいい環境で楽しく仕事しているところを生徒に見てもらえればいい。今後も続けていく。」

(3) 質疑応答

○ 岸根町内会長 三田様より

地域活動ということで 1 年生のサークルアクションにきていただいた。生徒の考えていることが想像以上に具体的で助かる意見をいただいた反面、今の生徒たちからはデジタル化を勧められたが、町内会では高齢化のためなかなか難しい。地域行事として、文化祭にも町内会のブースを出して取り組んだらいいという意見もいただいたので、今後検討していきたい。逆に生徒にもイベントに来てもらうだけでなくスタッフとして参加してもらえたらしいと思う。検討課題。防災も含めて、交流ができるいけたらいい。

→松井総括教諭より。「先ほど地連の尾崎からもでたが、ST でも、時間が十分にとれず、グループの中でも時間について検討している。生徒を地域に預け、地域での活動を増やしていくべきと思うが、そこが課題。」

○ マリノススポーツクラブ理事 望月様より

体育祭の時に生徒に指導していただいて、時間の連携がでなくて途中からの参加だったが、まだまだ人を見て動いている生徒がいたのでもっと自分から子供達と関わってもらうことで、子供たちにとっていい存在となることに繋がると思うので、出来れば生徒にメニューも考えてもらいたい。事前の打ち合わせを 1 度でなくて、2 度 3 度と繋げて、サッカーを通じて何を教えたいのかを固めていかいいと思う。クラブの方でも問題となっていることを生徒にインターネットを通じて調べてもらい、SNS を活用の意見が出たが、肖像権などで難しい。だが交流が生まれた生徒が実際にグラウンドに足を運んでくれたり試合を見に来てくれたりした班もいて嬉しかった。キッチンカーが 40 台近くだったので、美味しいものも食べられるのでうまく活用していきたい。

小机小の子も考えててくれて、自分たちでチケットのデザインを考えて商店街で売ってということもしたので、高校生がやってくれるといいものができるかもしれない。

→久保総括教諭より。「交流が増えてくれたら嬉しい、生徒に伝えることで嬉しいと感じる。解決法が SNS しか思い浮かばない、どういう解決策に結びつけていくかについて、教員も勉強しながら身につけなければならない。」

→尾崎教諭より。「文化祭の時のサッカ一体験で生徒に積極的にということだが、出来ればプロのコーチがどういう教え方をするのかを見てみたいという意見があったので考えていただければと思う。」

○岸根高等学校 PTA 奥山会長より

息子がこの3月に卒業しました。3年間ありがとうございました。

大学進学なのだが、何でこの大学にしたのかと聞いたら、先生と決めたと言うことを聞いて、凄く衝撃だった。その話を自分の子供から聞いて、教員の影響をすごく受けたり、教員が生徒のことを考えていて驚いた。本当にありがとうございました。

○すこやかサークル 長島会長より

卒業式には参加できなかったが、奥山さんの話を聞いて良かったと思った。

先生方の発表を聞いて、生徒に考えさせる事が身についていて、諸々の結果に結びついている。尾崎先生が自負されているように色々なアンケート結果にも表れていて、中学の時より思考力判断力表現力が高められたということが数字に表れているので3年間での積み重ねは目標が着実に進化していることが色々なところに現れている。

例えば望月さんが提案されたサッカーの指導を生徒主体の方向性でも取り組ませていきたいが、出来るものなのかな?

経験のない時にどうしたら良いかが課題なのでそれを今後クリアしていく事でより良いものが生まれる。

中々見えない結果がここ3年間で表れていて、色々なところでやっているからかと思う。それぞれの取り組みの姿勢が結果になっている。

久保先生が、どういうふうにしたらいいかわからないと述べていたが、課題解決、について私の長男がエンジニアで企業と連携をして特に製薬関係を担当していたので、未病につながるためのプログラムを医師と一緒に考える時に全く知らない分野をなぜ出来るのかと思った時に膨大な資料を読んでいた。薬のこともよく知っている。新しいプログラムを組む時に膨大な知識を入れて、それに向かっていくのがプロの作業。教員は授業に関してはプロであるが新たな課題を与えられた時に得意分野でなかったとき、違う社会のものを取り入れる時が課題だ。それで出てくることによって前に進める。その姿勢が結果に現れた。私たち大人が興味関心をもっていきいきとしていることが大事で、いい結果に表れると思うので、他の教員にも共有し、自分の担当じゃないことも知る事が大切で、更に深めることでいい結果になると思う。いのちの教育というものがあるのだが、一地域の人としてこういういい話があると連携していくことは出来る。一般の人が中々いのちの授業は出来ないが地域連携として行う事で何かのきっかけになるのではないかと思う。

→久祢田校長より。「生徒は伸び代があるが、全部伸ばせているかというとそうでは無いので、それをどうすべきなのかが我々の課題と感じている。

主体的に学習に取り組む態度を育むかが課題。手を挙げることではなくて、自分がこういう事が必要だからこういう勉強をしようというのが主体的に取り組むという事。

長島さんの言ったこととかをどうやるか、しきけを作るかというのを突きつけられていると思う。答えがないので難しいが、生徒と悩みながら一つ一つやっていく。」

ここでの悩みについて相談できる環境があるというのが、いい結果になっているが、ICTを活用しているのか?

→加藤総括教諭より。「県全体で行っている取り組みの一環でやっている。」

それをきめ細やかにやっている。生徒は見てくれているのだというのを感じていて身近な大人の教員

が気付いてくれているというのが生徒は嬉しくてこの数字に現れている。ただ、全くそう感じていないという6%については、なぜなのかはつかみきれていないのか分からぬ?

→加藤総括教諭より。「こころサポートだったら分かるが、アンケートからはつかみにくい。」

次年度これが減らすのが目標となる

学校管理からの報告で事故防止人権研修の卒業生を招いてとはどういうことか?

→川崎総括教諭より。「卒業生で、体操の練習中にけがをして障害を負った方を招いて行った。車いすの方で、障がいをもつた方の視点でものを考えるという人権研修の一環として招いた。」

(4) その他 (連絡事項)

三上副校長より

ご意見等ありましたらメールを頂けたら反映させていく。

(5) 閉会

校長より

本日は忙しい中ありがとうございました

色々な意見をぜひこれから学校運営に生かしていきたい。

次年度 第1回学校運営協議会は6月か7月を予定